

事業群評価調査 (平成29年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	教育庁総務課
施策名	(1) しまや過疎地域等の活性化と持続可能な社会の基盤づくり	課(室)長名	田淵 和也
事業群名	④ しまや過疎地域の教育の活性化に向けて、地域と協働した県立学校の魅力化	事業群関係課(室)	高校教育課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 少子化等により規模が小さくなったしまや過疎地域の高等学校については、学校の機能と教育水準の維持を図りながら、地域と協働して魅力ある学校づくりに取り組みます。						(取組項目) i) 離島留学等を活用した魅力ある学校づくりの推進 ii) しまの県立高等学校の魅力化の推進
指 標		最終目標 (H32)	目標 (H28)	実績 (H28)	達成率	(進捗状況の分析)
事業群	しまや過疎地域の地元地域と協働した取組の実施件数(累計)	6件	2件	2件	100%	事業の対象となる7地区において、地元市町、学校、地域住民等を構成員とする「魅力化推進協議会」を地域の実情にあわせて適宜開催した。その中で、五島南高校と奈留高校の2校については、地元市・住民等の協力もあって、早期に魅力化事業推進計画書がまとまった。3回の事業検討委員会における指導・助言を受けて、県教育委員会と地元市が具体的な検討を進め、平成28年9月に「長崎県立高等学校教育改革第8次実施計画」を策定し、平成30年度から両校に離島留学を導入することを公表、平成29年度は留学生の受け入れ準備や留学生募集のための広報活動を地元市とともに進めている。
その他指標						

2. 28年度取組実績 (H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					28年度事業の成果等	中核事業
			H28実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	28年度事業の実施状況 (29年度新規・補正は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率		
	H29計画		一般財源	人件費(参考)	H29目標					—	—			
取組項目 i	高校生の離島留学推進事業	H13-	31,615	29,841	6,434	中学生 高校生	離島留学制度を広く周知するため、広報活動を行うとともに、島外の中学生・保護者に交通費・宿泊費を支給して宿泊体験を実施した。また、海外での語学研修等実施校の教育内容を充実させるための取組を行った。	活動指標	他県教育委員会への訪問回数+説明会での説明回数(回)	50	84	168%	県内・県外での実施校説明会、県外教育委員会訪問、宿泊体験等の実施により、留学者数が平成27年度の53名から55名に増加した。	○
	90		—	—										
	高校教育課	46,022	39,282	8,881	成果指標			離島留学制度による留学者数(入学者選抜における合格者数)(人)	60	55	91%			
		90	—	—										
取組項目 ii	離島地区小規模校の魅力化「アイランド・チャレンジ」事業	H28-30	1,001	501	7,238	高校7校	1学年2学級以下の離島の小規模な高校7校を対象に、学校と地域住民等で構成する「推進協議会」を設置し、地元高校の魅力化事業推進計画書の策定に向けた協議を行った。策定された事業推進計画書については、県教育委員会に設置する「事業検討委員会」による指導・助言がなされ、計画の実現に向けて県教育委員会と地元市町が協働して取り組んだ。	活動指標	魅力化推進協議会開催回数(回)	21	23	109%	対象7地区において、「魅力化推進協議会」を延べ23回開催し、五島南・奈留高校の2校からは魅力化事業推進計画書が事業検討委員会に提出された。県教育委員会と地元市町が協働して計画の具体化を進め、平成30年度から2校への離島留学を導入することとなり、しまの教育の活性化に向けた県立学校の魅力化の推進に寄与することができた。	○
	15		—	—										
	総務課	1,049	525	7,267	成果指標			各地区に設置された魅力化推進協議会から事業検討委員会へ提出された事業推進計画書の件数(件)	2	2	100%			
		2	—	—										

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 離島留学等を活用した魅力ある学校づくりの推進	・五島高校、対馬高校及び壱岐高校で実施している離島留学制度については、対馬高校への専任職員の配置や宿泊体験の実施などの取組成果により、平成29年度の入学者数は、前年比2名増の55名と増加傾向となっているが、まだ定員の60名を満たしていない。 ・今後も入学者を継続的に確保していくため、生徒が安心して過ごすことができる環境面の充実と、1人でも多くの生徒に受検してもらうための広報活動の充実が課題である。
ii) しまの県立高等学校の魅力化の推進	平成30年度から離島留学制度を導入する2校については、離島留学制度を所管している高校教育課と県内外における生徒募集活動を行うとともに、地元市や地域と連携した島外からの生徒の受け入れ態勢を整備する必要がある。また、他の5地区については、早期の魅力化推進事業計画書の策定に向け、引き続き、地元市町と協議・検討を行っていく必要がある。

4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しがなければ「―」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i	高校生の離島留学推進事業	宿泊体験参加者の約8割が離島留学に志願するなど、高い効果が期待できることから、実施組数の増など拡充を行っている。 また、生徒が主体的に企画・運営する取組みを行い、各コースの魅力を中学生等に広く発信することで、コースへの関心を喚起し、志願者の増加につなげる。 新たに五島南高校、奈留高校の2校においても離島留学を開始し、平成30年度入学者の募集にかかる広報活動を行う。	②③⑧	平成30年度においては、宿泊体験の充実や広報専任コーディネーターの継続配置を行うとともに、離島留學生が安心して生活できるような受入体制を整備するため、壱岐高校への専任職員の配置を検討する。 また、五島南高校及び奈留高校において体制づくりを進めるとともに、引き続き、島外からの生徒募集のための広報など、必要な取組を実施していく。	拡充
取組項目 ii	離島地区小規模校の魅力化「アイランド・チャレンジ」事業	五島南・奈留高校の2校については、魅力化推進事業計画を策定し、五島市と協働で取り組むこととしたことから、「アイランド・チャレンジ」事業の対象地区が7地区から5地区となり、活動指標としている協議回数は21回から15回となる。引き続き、5地区での計画策定に向け、協議・検討を行う。	―	平成30年度は、「アイランド・チャレンジ」事業の最終年度となる。これまでに、魅力化事業推進計画の策定に至っていない地区については、地元市町との役割分担や教育内容の検討を一層進め、計画書を策定するとともに、地元市町と協働して、事業化に取り組んでいく。	現状維持